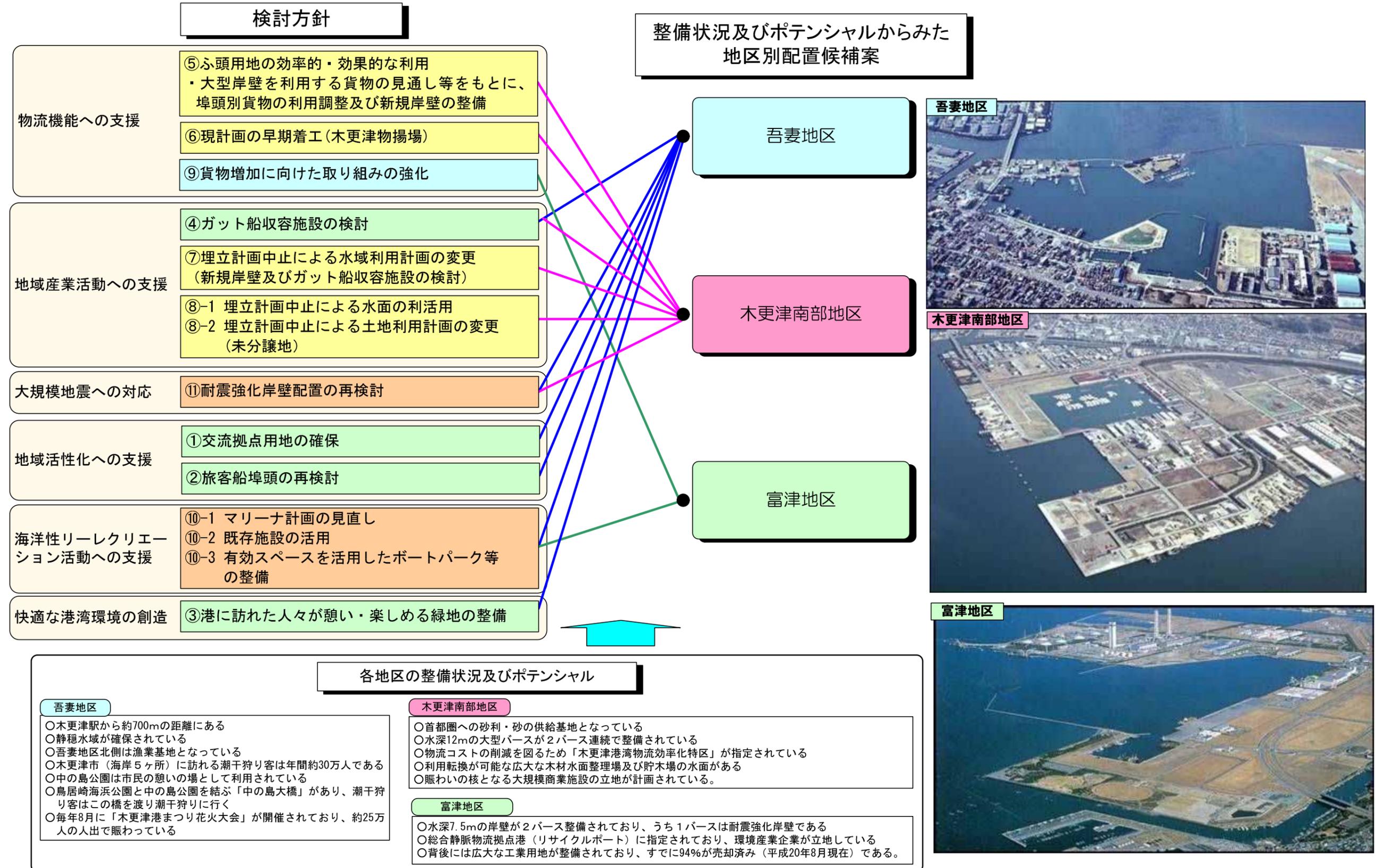


6. 要請と課題への対応策

6-1 地区別配置候補案

前項で整理した木更津港への要請と課題に対し、各地区の整備状況及びポテンシャル等を踏まえ、地区別配置候補案を以下のとおり提案する。



6 - 2 検討方針における候補地比較

(1) 物流機能への支援 大型岸壁の整備

今後、物流機能を強化していくためには、船舶の大型化に対応した岸壁の整備が必要である。また、効率的・効果的な利用を行うためには、既存施設と一体となった利用を図る必要がある。

そこで、候補地として以下の2地区を設定した

候補地 - 1：木更津ふ頭E・F岸壁改良案

候補地 - 2：水面整理場埋立案

施設規模については、今後、詳細な貨物量推計等をもとに設定するものとする。

候補地比較

	長 所	課 題
候補地 - 1	埋立が無い場合、整備コスト面では優位である	工事期間中における岸壁利用調整が必要である 背後埠頭用地が木更津G岸壁と共有となるため、効率的な荷捌きが必要である
候補地 - 2	埋立が必要となるが、3連続の大型岸壁(240m×3バース)として一体的な利用が可能 候補地 - 1に比して背後に十分なふ頭用地を確保できる	水面利用者との調整(補償)が必要



(2) 地域産業活動への支援 ガット船の収容

木更津港には常時 50 隻程度のガット船があり、夜間等の休憩には吾妻地区及び岸壁前面に係留している。しかし、吾妻地区の岸壁は老朽化しており、また、一部利用できない岸壁がある。そこで、限られた水域の中で、収容可能な候補地として以下の 2 地区を設定した。

候補地比較

	長 所	課 題
候補地 - 1	砂利・砂取扱ふ頭から直近であり、ガット船を南部地区に集約できる	水面利用者との調整（補償）が必要 新規大型岸壁計画と、配置計画の調整が必要である 静穏度を確保するため、波除堤の整備が必要 小型船だまりの整備が進むまで、内港の再整備が困難
候補地 - 2	静穏が確保された水域であるため、防波堤等の整備が不要 背後の緑地整備と平行した整備が可能であり、コスト縮減とともに、老朽岸壁の再整備等、早期効果発現ができる	水域が狭く小型作業船やプレジャーボートとの輻輳がある 水深を確保するためには、航路の浚渫が必要になる 市街地前面であり、景観におとる



(3) 大規模地震への対応 耐震強化岸壁の整備

大規模地震が発生した場合に住民の避難、物資の緊急輸送等に供するため、大規模地震対策施設が必要である。現在、木更津港には富津地区に1バース(水深 7.5m)と既定計画で吾妻地区の旅客船埠頭が位置づけられている。しかし、吾妻地区の耐震強化岸壁は未着手である。

そこで、今回、改めて他の導入機能等の配置等を踏まえ、耐震強化岸壁の位置を検討する。検討位置としては、既存岸壁の利用が高いことから、新規に整備する岸壁を耐震強化岸壁に位置づけるものとする。候補地としては以下の2地区を設定した。

候補地 - 1 : 木更津南部地区

候補地 - 2 : 吾妻地区

候補地比較

	長 所	課 題
候補地 - 1	緊急物資等の保管に資する大規模な用地を確保できる 復興資材の受け入れに活用できる 周辺企業等の経済活動継続に貢献できる	市街地から遠く、住民避難等には不便 大水深岸壁を耐震化した場合、事業費が割高になる 工事期間中における岸壁利用調整が必要である 砂・砂利で利用されている場合、緊急時の利用が困難
候補地 - 2	市街地に近接しており、住民の緊急避難、帰宅困難者対応、即応資材の輸送等、小型船舶を活用した初期活動に対応できる 内港緑地(避難場所)と一体となった利用ができる	中の島大橋の耐震補強が必要である 大型船が利用できない 大規模な用地の確保が困難



(4) 地域活性化への支援 交流拠点用地の整備

地域の活性化を図る上で、交流拠点用地の整備が要請されている。そこで、既存施設との連携、歩行者動線等を踏まえ、候補地として以下の2地区を設定した。

候補地比較

	長 所	課 題
候補地 - 1	駅から一番近い位置に交流拠点用地が配置されシンボリックな利用が図れる イベント時等には、交流拠点用地前面の岸壁で旅客船等の利用が可能 中の島公園等への人の動線に連続性ができる	駐車場用地を含めた用地確保の埋立が必要
候補地 - 2	内港緑地(工事中)と一体的な活用が可能である 緑地の駐車場を活用できることから用地を縮小できる 交流拠点と漁組が連携した取り組みが図れる	駅からの歩行者動線が長くなる

